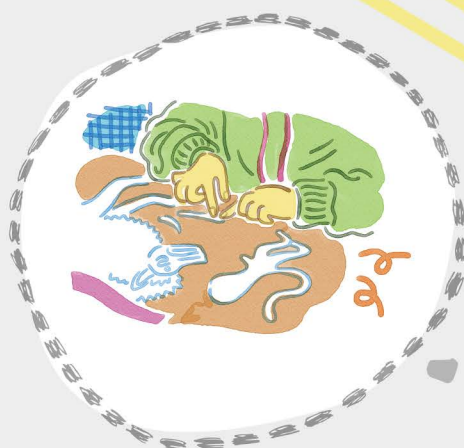
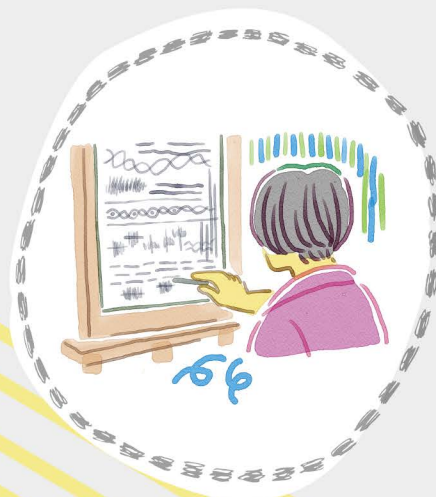




福島県障がい者
芸術文化活動支援センター

2023 年度報告書



はじまりの美術館

福島県障がい者
芸術文化活動支援センター

2023
年度報告書



はじまりの美術館

はじまりの美術館について

はじまりの美術館は2014年6月に福島県耶麻郡猪苗代町に開館した小さな美術館です。2019年度より、福島県障がい者芸術文化活動支援センターとしても活動をしています。

福島県内をはじめ全国の障がいのある方々が、自分らしく表現活動を行い、文化に触れ、その担い手になる機会を広げる取り組みを行っています。障がいのある方、そのご家族やサポートをされているみなさんと一緒に悩み、さまざまな考えやアイデア、技術や知識を共有してまいります。

はじまりの美術館 館長 岡部兼芳

はじまりの美術館が支援センターとして5年目となる本年度は、「つながりを深める」一年となったように思います。

はじまりの美術館では昨年度に引き続き、多様な分野の方から様々な相談が寄せられるようにもなりました。そこからゆるやかなネットワークにつながったり、事業につながったりする事例も増えてまいりました。昨年度、相談をいただいたところからはじまった「アクセシビリティに関する研修」は、福島県内の文化施設が加盟する「福島県博物館連絡協議会」と共催の事業として、継続実施しています。福島県内の文化施設の職員のみなさんとともに、誰もが文化を享受できる環境づくりにはなにが必要なのか、「合理的配慮」を起点に意見交換を行うことができました。一方「シエント情報交換会」では、主に福祉事業を行っているスタッフのみなさんがともに悩みを相談し、情報を交換する場を設け、福祉とアートそれぞれでの関わりの場をつくることができました。

鑑賞・発表の機会としては、福島県の委託事業として実施している公募展「きになるちようげん」でこれまで出会った方々より、福島県中通りを拠点に活動する5名の方をご紹介させていただきました。さらに、地域への展開である「きになるちまちなか美術館」も4年目となり、今年度は南相馬市でお店などを営む方々に「きになる」作品を選んでいただくとともに、お店等での展示を行っています。

事業評価の面では、九州大学の長津結一郎さんを伴走者としてお迎えし、これまで取り組んできたロジックモデルの見直しを行いました。美術館を運営しながら歩み続けるなかで、第三者の方と振り返ることができる貴重な機会となっています。

福島県の支援センターとしてみなさんとのつながりを大切にしながら、引き続き、地域の中で果たすべき役割を担っていきたいと考えています。

「相談する」



障がいのある方の表現活動に関するアドバイスや、作品の展示等について相談や情報提供を行います。また著作権等の権利保護に係る専門的な相談にも、弁護士などと連携し対応しています。

「研修を受ける」



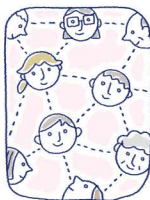
障がいのある方の表現活動を支援するご家族や施設職員、また関心のある方などを対象に、研修会や上映会、トークイベントを開催しています。

「発表する・鑑賞する」



障がいのある作家の調査を行うとともに、展覧会を企画・開催し、表現の多様性と魅力を広く伝えます。また、様々な人が鑑賞する機会や場をつくっています。

「ネットワークを広げる」



福島県内、近隣エリアの関係機関や関係者が、情報共有・意見交換を行う場を設け、ネットワーク化を図ります。

「情報を知る」



福島県内、ならびに他県の障がいのある方の表現活動にかかわる情報を収集し、SNSなどで発信を行います。また、はじまりの美術館内には、情報スペースを設けています。

「ふりかえり・事業評価」



はじまりの美術館および支援センターの取り組みと並行して、ふりかえり、検証、評価を行っています。

この報告書について

- ・ 2023年度に行った事業を「相談する」「研修を受ける」「発表する・鑑賞する」「ネットワークを広げる」「情報を知る」「ふりかえり・事業評価」のセクションにわけてご紹介しています。
- ・ 相談したいことや気になったことがある際は、お気軽にはじまりの美術館までご連絡ください。

1 相談する

2023 年度の相談事例……6

相談の流れ……8

2 研修を受ける

砂連尾 理ワークショップ「さわる / ふれるをかんじる」……10

博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会……11

シエント情報交換会……12

3 発表する・鑑賞する

企画展「きになる→そのさき」……14

はじまりアトリエ……18

きになる⇄まちなか美術館……19

4 ネットワークを広げる

南東北・北関東ブロック……24

「出稽古」事業報告……25

全国の福祉事業所とのネットワーク……26

5 情報を知る

はじまりの美術館の情報発信……28

おすすめサイト・書籍……30

6 ふりかえり・事業評価

福島県障がい者芸術文化支援センターとしての事業評価……32

1

そう だん
「相談する」



2023 年度に寄せられた相談内容から

はじまりの美術館では、2019年度から表現活動に関する相談を受け付けています。2023年度は93件の相談がありました。主に電話やメールでの相談が多く、また、はじまりの美術館にご来館いただいての相談や、事業所へ訪問しての相談対応も行いました。障がいのある方ご本人からの相談が最も多く、ついで福祉関係者、教育関係者、行政、メディアなどから相談をいただきました。

よくあるご相談

Q 障がいのある方向けの公募展情報が知りたいです。

A はじまりの美術館でまとめた情報をお渡ししております。各公募展の募集締め切り日に注意してください。また、障がいの有無に関わらず全国では様々な公募展が開催されているので、ぜひ公募展情報サイトなどを見て、気になるものに挑戦してみてください。

Q どうすればもっと作品がよくなるかアドバイスがほしいです。

A どのように活動をしていきたいか、作者ご自身のことなどもお伺いしながら、作品をみてアドバイスさせていただきます。ぜひ作品や作品を撮影した写真をご持参ください。

Q はじまりの美術館で作品を展示したいのですが、どうすれば展示してもらえますか。

A はじまりの美術館では例年、福島県主催の公募展である福島県障がい者芸術作品展「きになるきひょうげん」を開催しています。秋頃に作品募集がはじまりますので、応募要項をご確認のうえご応募ください。なお、現在のところははじまりの美術館展示室の貸し出しは行っておりません。

2023年度にお寄せいただいた相談の例

Q 訪問看護を行っている医療機関。美術や芸術的な活動が好きな方もいるが、どういうふうに活動を広めていくといいか悩んでいます。また、最終的には、居場所づくりを行っていきたくと思っています。

A 安積愛育園（はじまりの美術館の運営母体）でも、入所施設の生活介護事業のなかで、創作活動を行っていました。その後、「自分たちだけで作品を見ているのはもったいないな」というところから活動が広がっていきしました。当時は、まず公募展に応募するところからはじめました。そして、地域のなかで展示会場や蔵などを借りて、小さい展覧会を開催していました。「居場所づくり」にも興味があるということなので、まずは、事務所のなかでくつろげる居心地のよいスペースをつくったり、施設内に作品を展示することを始めたり、カフェや近隣のお店などにも協力していただきながら、地域に活動を広げていく方法があると思います。

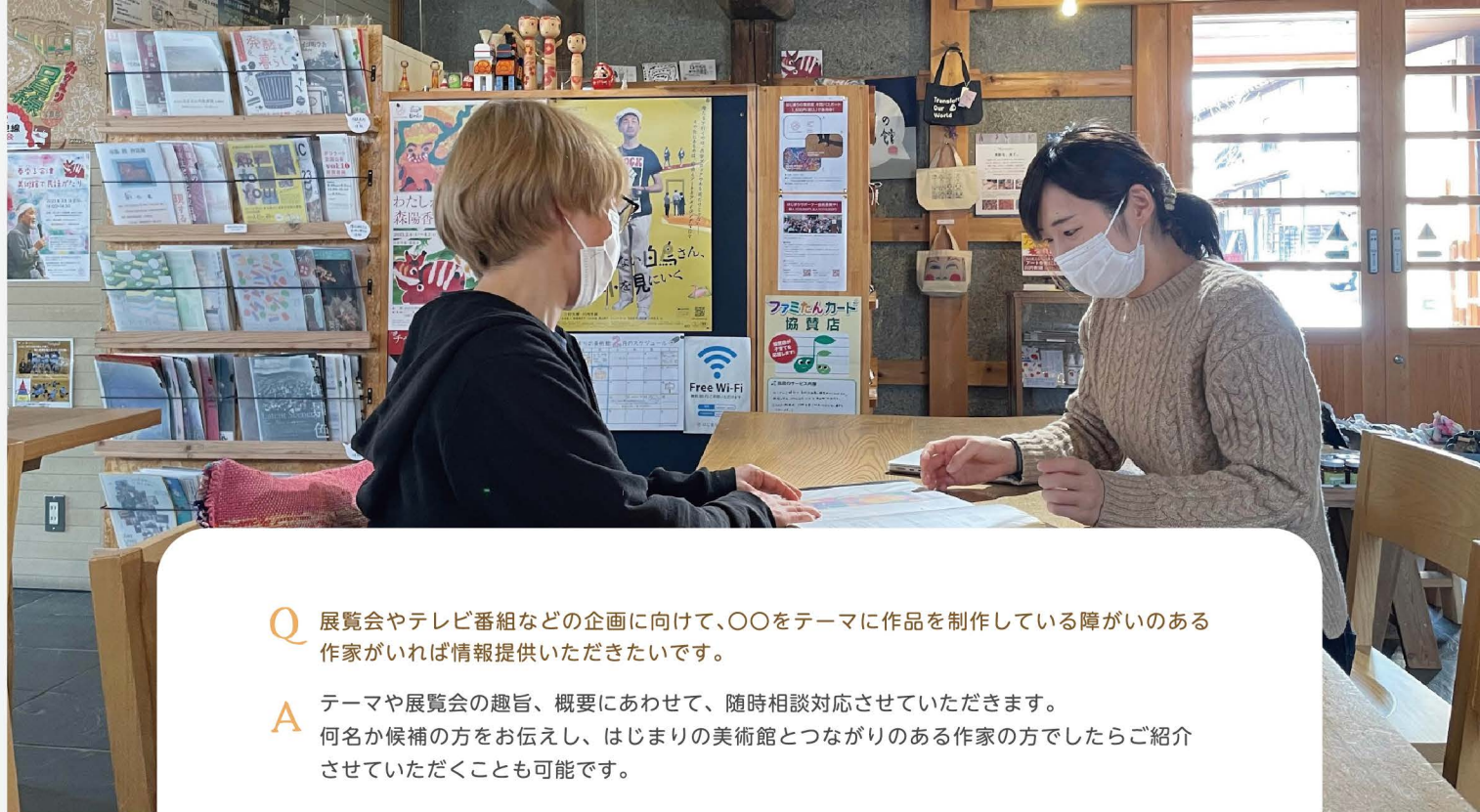
一緒に「1、公募展に応募する
2、自分たちで展覧会を実施する
3、グッズ化する」という今後の目標を立てました。後日、きになるきひょうげん展に応募いただき、作品は、はじまりの美術館に展示させていただきました。

Q 作品の展覧会にあわせて、初めて新聞社からの取材を受けることになりました。とても緊張しているのですが、どんな質問をされることが多いでしょうか。準備したいです。

A 新聞社の方の取材でよく聞かれるのは以下の項目です。

- ・生年月日（年齢を掲載するため）
- ・生まれた地域
- ・現在住んでいる地域
- ・いつ頃から作品をつくりはじめたか、そのきっかけ
- ・これまで何作品くらい作品をつくったか
- ・作品をつくるときに大切にしていることやこだわり
- ・これまでどんな活動をしてきたか（受賞歴・出展歴）
- ・受賞や展示をして、家族や、友人、まわりの人の反応の変化などはあったか
- ・今後挑戦してみたいこと、つくってみたいもの

展覧会を鑑賞しながら、いろんな質問があると思いますが、ゆっくりご自身のペースで回答されると大丈夫だと思います。また、利用している事業所の職員の方などが取材に同席していただける場合には、同席していただくと安心して取材対応ができるのではないかと思います。



Q 展覧会やテレビ番組などの企画に向けて、〇〇をテーマに作品を制作している障がいのある作家がいれば情報提供いただきたいです。

A テーマや展覧会の趣旨、概要にあわせて、随時相談対応させていただきます。
何名か候補の方をお伝えし、はじまりの美術館とつながりのある作家の方でしたらご紹介させていただくことも可能です。

Q 作品を使用したグッズを制作するのに、おすすめのアプリがあれば教えてほしいです。

A はじまりの美術館では、「Adobe Photoshop (フォトショップ)」で画像加工を、「Adobe Illustrator (イラストレーター)」でデザインやレイアウトを行うことが多いです。
近年は、グッズ制作のサイトやアプリ内で画像を加工できたり、自由にデザインをすることもできますので、まずは無料のアプリから試してみることも良いと思います。
画像の切り抜きは iPhone の「写真」アプリでも可能です。

Q イベントのチラシをはじまりの美術館に設置していただくことはできますか。

A スペースに限りがありますので、事前に電話またはメールでご連絡・ご相談のうえお送りください。福島県内の情報、地域に関わるもの、アートに関わるもの、障がいと表現に関わるものを中心に、チラシ設置の協力をさせていただいております。

Q 初めて使う画材を使用して、新しい作品を描いたので見てアドバイスがほしい。

A 作品でどんなところをこだわったか、どんなところが難しかったか、など、作品を立てかけて一緒に見ながら、お話を伺います。

「普段は、2,3 日で制作を終わらせているが、1 ヶ月半迷いながら制作をした。何回も書き直してきて、いろんな書き方が試せた。」とお話いただきました。

Q はじまりの美術館に事業所の活動で出かけたいが、どんなサービスがありますか。また、団体割引などありますか。

A はじまりの美術館に団体で出かけることが決まったら、はじまりの美術館まで電話 (0242-62-3454) またはメール (otoiawase@hajimari-ac.com) まで、ご希望の日時と人数をご連絡ください。

ちいさな美術館のため、他の団体利用の方と重ならないよう、調整させていただきます。
展覧会観覧料は、障がい者手帳をお持ちの方ご本人と付き添いの方 1 名まで無料となります。
料金は展覧会ごとに異なりますので、事前にホームページ等でご確認ください。また、団体割引はございませんので、ご了承ください。

相談の流れ

ご相談は、ご来館いただいたの「対面相談」、Zoomを用いての「オンライン相談」、メールでの「メール相談」を受付しております。

はじまりの美術館 無料相談窓口

TEL

0242-62-3454

(※火曜・展示入れ替え期間中休館)

Mail

soudan@hajimari-ac.com

対面で相談ご希望の方

メールまたはお電話にて相談希望の日時と内容をお知らせください。

日程調整のうえ決定した日時に、はじまりの美術館にご来館ください。

はじまりの美術館オハコカフェにてお話を伺いいたします。
相談時間は30分～1時間程度になります。

オンラインで相談ご希望の方

メールまたはお電話にて相談希望の日時と内容をお知らせください。

はじまりの美術館がZoomのURLを設定します。指定の日時に、Zoomに入室ください。

Zoom上でお話を伺いいたします。カメラと音声はONでご参加ください。
相談時間は30分～1時間程度になります。

メールで相談ご希望の方

メールに「お名前」「ご所属やご職業」「相談したい内容」をご記入のうえ送信してください。

1週間以内を目処にご相談内容に返信させていただきます。相談内容によっては、何度かメールのやりとりを繰り返させていただきます。
※1週間経っても返信がない場合は迷惑メール等に振り分けられている可能性があるため、お電話等でご連絡いただけますと幸いです。

これまでご相談いただいた方からのご感想

たくさんの気づきがあったり、自分の視野が広がったり、好きなものが増えたり、本当にたくさんの学びがありました。本当はもっとこうだったのに、と自分自身に足りないことも発見できました。たくさんの発見を、今後の活動に存分に活かしたいと思います。このような機会をつくって下さり、心より感謝申し上げます。私や母と真剣に向き合ってください、幸甚に存じます。

ご丁寧に教えていただき、ありがとうございます。いただいた情報を元に、色々ご縁を掴みたいと思います。

色々教えて頂きありがとうございました。特に学芸員の必要性や美術館の職業について、インターネットで調べてもあまり出てこなかったのが初めて知ったことばかりで驚きました。また教えて頂いた障害者に関する記事など色々拝見したりしましたがどれも目からウロコで「無償で相談して大丈夫なのか」と心配したくらいでした…。今回の経験を参考に今後の就活を頑張っていきたいと思います。また相談したいと思った時はよろしくお願いします。

今日は自分の心と向き合い、まずは最初に書き始めた時の気持ちに戻ってみようとして過ごしていました。すると偶然のように、展示会の知らせが入りました。そしてさっそく、応募を目指そうと決めたところです。昨日話を聞いていただいたことや、アドバイスをいただいたことが新たな刺激になったからこそ、すぐに決断できたのだと感じています。迷子の私に出口のヒントを与えてくださり、本当にありがとうございました。

2

けんしやう う
「研修を受ける」



砂連尾 理ワークショップ「さわる／ふれるをかんじる」



日時：2023年6月4日（土）13:00～15:00
 会場：はじまりの美術館
 参加者：12人
 講師：砂連尾 理（振付家・ダンサー）



映画『エチュード』のもとになった、市民参加型ダンスワークショップ「さわる／ふれる～ここにいない人と踊るためのエチュード」のエッセンスを感じるためのワークショップを開催しました。

館内でストレッチからスタートし、その後、「ゆっくり歩く」という動作をみんなで行いました。足のつま先から裏側、かかと、地面につけた足を変える時の重心の移り変わりなど、様々なことを意識しながらできるだけゆっくりと歩きました。

その後、外に出たワークショップ。ペアになって、今度は「触れないように触れ合う」ことをやってみました。最初は握手のような形で触る手前まで手を近づけ合います。そのあとはどちらかの手が逃げれば一定の距離をもって追いかけたり、触れそうになったら逃げたり。相手の動きを押し図りながらの駆け引き（！？）は、それぞれ独特な動きが生まれていました。

最後に行ったのは、ペアになった相手と離れた場所に座り合い、相手側のほうへ近づきあいながら、一瞬だけ触れ合っただけという即興ダンスのようなもの。砂連尾さんからは「ペアになった相手との触れ合いに加えて、足元に生えている草花や木々などとも触れ合いながら動いてほしい」と話がありました。ほんとに一瞬だけ触れ合うペア、しばらく触れないように触れ合う動きをし続けるペア、片方の方はまったく動かないペア、一緒に横に並んで動くペアなど、さまざまな関係性が身体の動きとともに表現されていました。

feed back

触れちゃいけないと動いているつもりが、どうしても触れてしまう瞬間がある。相手との境界がぼやけるような。

最後のはまさにダンスでした。すごく楽しい時間だった。

普段は人の目を気にしてしまうことが多いが、今日はだんだんと気になくなってきた。

早く動く、複雑な動きをすることのほうが難しいと思っていたのに、ゆっくり歩くということがこんなに難しいのかと思いました。





福島県博物館連絡協議会との共催事業 博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会 ～誰もが訪れやすいミュージアムの仕組みづくり～



日時：2024年2月1日（木）13:30～16:00

会場：郡山市立美術館多目的スタジオ（福島県郡山市安原町字大谷地 130-2）

対象：福島県博物館協会会員館のスタッフ（学芸、事務、正規、非正規を問わない）

参加者：30名

主催：福島県博物館連絡協議会

共催：福島県障がい者芸術文化活動支援センター はじまりの美術館
（厚労省障害者芸術文化活動普及支援事業・福島県補助事業）

企画協力：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

連携：文化庁委託事業 令和5年度 障害者等による

文化芸術活動推進事業「みんなでミュージアム」

福島県内のミュージアムスタッフ向けに、博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会を昨年度に続き開催いたしました。「誰もが訪れやすいミュージアムの仕組みづくり」をテーマに、福島県博物館連絡協議会の事業として、福島県内のミュージアムに所属するスタッフの方を対象に実施されました。はじまりの美術館は、令和5年度福島県障がい者芸術文化活動支援センター事業として共催・運営のサポートを行いました。当日は、学芸員、受付スタッフの方、監視業務の方、事務スタッフの方など、様々な職種の方にご参加いただきました。

研修会では、エデュケーターの梅田亜由美さん、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局スタッフの高橋梨佳さんにファシリテーターとしてお越しいただき、まず「合理的配慮の基本的な考え方」について研修をしていただきました。障害者差別解消法や障がい者文化芸術活動推進法などを含めて合理的配慮の提供が義務化にいたる経緯などを学びました。その後、協議会に登録されている2つの館（諸橋近代美術館、郡山市立美術館）から昨年度の研修会後に合理的配慮について取り組んだことなど事例紹介をいただきました。

休憩をはさんだ後半は、オブザーバーとしてご参加いただいた福島県在住で統合失調症と向き合う天水みちえさん、自閉スペクトラム症のお子さんのお母さんである石川信子さんのお二人にインタビュー形式でお話を伺いました。その後、テーブルごとに意見交換を行いました。



障がいをもつ方やご家族の実際のお話をうかがうことができ、気づきが多かった。他館の事例についてももう少し詳しく知りたかった。

各館の事例の発表で学びが多かった。グループワークの場などでもそれぞれの取組をきいてみたいと思った。事前アンケートでもよいかもしいない。

feed back

アクセシビリティは筋トレだ！
胸に刻みます。

cento- シエント - 福祉と表現にまつわる研修会 「シエント情報交換会」



日時：2024年3月26日（火）14:00～16:00
会場：福島コトひらく 大会議室（福島県郡山市富久山町久保田字下河原 191-1）
参加者：10名
話題提供者：
・木村 隆行（社会福祉法人会津療育会 アガッセ 作業療法士）
・黒澤真貴子（NPO 法人しんせい 生産管理担当）
・齋藤 尚也（認定 NPO 法人えんじょいらいふ福祉会 アートさをり 所長）



主に福島県内の障害者支援施設等で表現活動のサポートに携わっている方、障がいのある方等の表現活動に携わっている方、福祉と表現に興味・関心がある方に向けて、「シエント情報交換会」を開催しました。シエント情報交換会は、県内の事業所の方から「福島県内でネットワークをつくれる場がほしい」というリクエストにお応えて昨年度に初開催しましたが、好評につき今年度も実施となりました。

前半は、3 事業所 3 名の話題提供者から 15 分ずつお話をいただきました。アガッセの木村さんからは「創作活動について」の話から、アガッセさんでの活動の様子や毎年実施している展覧会について、しんせいの黒澤さんからは「製品化について」のお話を中心にどんなこだわりをもって製品を作っているか、そしてアートさをりの齋藤さんからは「地域での活動について」として販売会への出展や 2021 年にオープンした新施設についてのお話などをしていただきました。

後半は、3 つのテーブルにわかれて「創作活動」「製品化」「地域での活動」をテーマにワールドカフェ形式でワークショップを行いました。今回は福祉事業所に勤務している方の参加が多く、それぞれのテーブルで日頃の悩みや考えていること、お話を聞いて感じたことなどを共有し合いました。

話題提供いただいた 3 名の方も今回はじめてお会いしたとのことで、お互いに情報交換しあう場にもなったようでした。参加者のみなさん含めて学びと出会いの場になっていたら幸いです。



feed back

今回の研修会で印象に残った言葉や内容を教えてください。

- ・人が人を呼び、そこから人のつながりや地域との交流が広がっていく。
- ・きっかけやついでといった小さな事がとても大事で、それがやがて大きくなる事もある。
- ・「しんせい」さんが、仕事にメンバーを合わせるのではなく、メンバーができることでやるという主旨の言葉があり、それを実現していることがすごいことだと思った。
- ・福祉の製品ではなくしっかりとした製品をつくる。百貨店における製品を作る。

今回の研修会を受けて、「こんなことをしてみたい」「こうしてみたい」などの気づきやアイデアがあればご自由にご記入ください。

- ・創作活動でのアイデアをもらえてよかったです。
- ・音楽の表現についてもどう価値のあるものにしていくか考えていけたらと思いました。
- ・地域とのつながりを深めるための活動場所ができたなら、イベントを開いて地域とのかかわりをつくりたいと思った。
- ・最近、事業所近くの学校（高専）の学生さんと何かできないかなと考え始めていたのですが、具体化していきたいと思いました。

感想など

- ・もっと社会との関わりを増やしたりすることで、作品や製品の広がりができるのではないかと可能性を感じることができました。お話できる機会をいろいろとっていただきよかったです。
- ・フランクで参加しやすい研修でした。
- ・意見交換という場がとてもためになりました。
- ・時間がもう少しほしかった。

3

はっぴょう かんしょう
「発表する・鑑賞する」



企画展「きになる→そのさき」



2024年2月10日(土)~4月7日(日)
10:00~18:00 ※火曜休館

出展作家：石附若菜、大内聖惺、
木須 弘、zuoruren、原 学志

会場：はじまりの美術館

主催：社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館

はじまりの美術館では、福島県の委託を受け、福島県障がい者芸術作品展「きになる→ひょうげん」を実施しています。これまで開催した「きになる→ひょうげん」で出会った、福島県中通りの「きになる」5人の作家と、その作品を紹介する展覧会を開催しました。

展覧会を制作しながら、作家やその周りの人たちにお話を伺いし、表現が及ぼす様々な作用を追いかけてきました。また、展覧会会期中はギャラリートークやワークショップなどさまざまな関連イベントを開催し、作家と鑑賞者の方の交流、さらには作家同士やご家族との交流の時間も生まれました。

comment

子どもの頃から絵が下手で学校を出たらまったく描かなくなりました。今日「楽しそうだな!」と思って54才にして絵が描きたくなりました。スケッチブックを買って帰ります。(50代)

大内さんのねんど作品を何とか残るように説得していただきたい(希望)です(40代男性)

“障がい者”のアートという言葉への違和感があり(線を引くことで失われる平等性とは? 公平性の担保?)その実際に現場で感じられたらと思い伺いました。実際に話しを伺うことで、日々の迷いや実践のあり方について感じることができました。(30代男性)

自分も放デイ、多機能型事務所で働いていてアート展を開催することもあり、とても興味深く拝見させていただきました。(30代女性)

様々な格言があって興味深かった。
面白いとおもった。(30代女性)

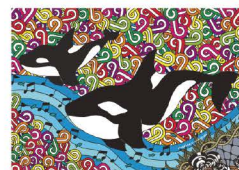




石附 若菜 ISHIZUKI Wakana

1994年福島県郡山市出身、在住。2017年から絵を描きはじめ、2018年にアートビリティ登録作家となる。家族や、支援センターの先生方から褒められたことが絵を描くきっかけ。集中力を持続させるのは苦手だが、絵は飽きずに一日中描いている。特に、生き物、植物、ぐるぐるした模様を描くのが好き。見てくれた方々が明るい気持ちになってみんなが幸せになるような絵をこれからも描き続けていきたいと考えている。作品は様々な雑誌の表紙やカレンダー、パッケージデザインなどにも使用されている。

主な受賞歴に、「第3回スタンド灰皿デザインコンテスト」最優秀賞受賞（2021年）、第5回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2021」きになるちひょうげん賞受賞（2021年）、「第35回アートビリティ大賞」三菱HCキャピタル特別賞受賞（2023年）、他。



大内 聖惺 OUCHI Masato

2007年福島県本宮市出身、在住。幼少期より絵を好んで描き、特に動物をモチーフとした作品を多く描く。色とりどりのマーカーペンを使用し、下書きをせずに伸び伸び描かれる線や面が特徴。平面作品以外にも、切り絵の作品や、自宅のリビングにて粘土を使ってレリーフ状の作品を作るなど、毎日制作を行っている。

主な受賞歴に、第2回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2018」オーディエンス賞受賞（2018年）、第5回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2021」福島県知事賞受賞（2021年）、第7回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん2023」オーディエンス賞受賞（2023年）、他。

木須 弘 KISU Hiroshi

1942年福島県福島市出身、伊達市在住。福島県総合美術展、モダンアート展、欧州美術クラブ（チリ）展に出展するほか、個展を中心に創作活動を行う。現在は、特別養護老人ホーム「ファミーユ」に居住している。

2歳の頃に小児麻痺を患い、足が不自由となった。絵は独学で学び、こけしの顔を描く仕事や看板制作の仕事、絵画教室での講師などを行う。1964年頃から本格的に絵画制作を行う。40代の頃から水彩絵の具とパステル、サインペンなどを使い「メルヘン画」を描くようになる。メルヘン画では、簡略化した家や建物、人、夜空に浮かぶ月や星をモチーフとしている。

主な受賞歴に、「第26回チリ美術賞展CAEA賞受賞」（2000年）、「第66回福島県総合美術展覧会」洋画の部佳作・福島県文化スポーツ局長賞受賞（2012年）、他。

主な出展歴に、「木須弘 個展 ～絵と旅をした男～」(2014/伊達市梁川美術館/福島)、「収蔵作品展」(2018/伊達市梁川美術館/福島)、他。



Profile

zuoruren ゾウロレン

1980 年福島県田村郡三春町出身、在住。美術系の高校・短大に進学し、2001 年に長野県に移住。その後 2017 年に福島県へ戻り、公募展に積極的に応募をするようになる。平面作品から立体作品、手工芸まで、媒体を問わず様々な作品を制作する。作品はそのときの自分の「分身」のような存在だという。感じたことを残すように形をつくり、時には年輪のように、時には脱皮をするように成長をしながら制作を行っている。絵を描くときには自身の感覚を大事にし、特に色の配色を考える際には口の中で吟味するように色をイメージをして確かめる。

主な受賞歴に、「白石一文『翼』イメージ画像コンクール」大賞受賞（2014 年）、「第 4 回 Art to You! 東北障がい者芸術公募展」入選（2018 年）、第 5 回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん 2021」特選（以後、毎年特選）、第 8 回東北障がい者芸術全国公募展「Art to You!」入選（2022 年）。

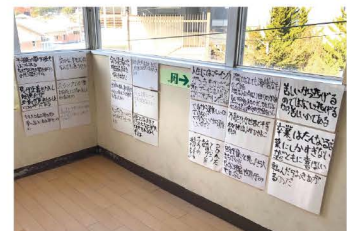
主な出展歴に、「きになるちまちなか美術館 @ いわき市 平エリア」出展（2022/ いわき市内各所 / 福島）、「がばいアーティストたち vol.5」出展（2023/ ゆめぶらっと小城 / 佐賀）、「きになるちまちなか美術館 @ 白河市」出展（2023/ 白河市内各所 / 福島）。



原 学志 HARA Satoshi

2006 年福島県東白川郡棚倉町出身、在住。中学生の頃から自分の主張したいことを、「格言」形式の言葉や、原稿用紙のマス目に印刷した「小論文」形式で表現をしている。格言は当時の中学校の教員の目に留まり、「格言ロード」として中学校の中で展示された。近年は、短編小説を書くことが多い。中学生のときに美術部に入ったことをきっかけに絵の制作を始める。Youtube など技法を調べ、独学で人物や動物、風景などを描く。

主な受賞歴に、2021 年度第 9 回「いじめ・自殺防止」コンテスト作文部門 最優秀賞受賞、第 5 回福島県障がい者芸術作品展「きになるちひょうげん 2021」審査員賞・川内有緒賞受賞（2021 年）、他。2021 年に福島県知事・棚倉町長との交流をきっかけに、知事室には、原さんが書いた格言が飾られている。



格言は自己満
足でいい人
を感心させる
ものだ

はじまりアトリエ

はじまりアトリエは、毎回テーマを決めて様々な表現をしてみる場としてスタートしました。おとなも子どもも、障がいのある方ない方も、どなたでも参加できる、ゆるやかなアトリエです。表現したあとは、みんなで作品を鑑賞し、素材の違い、表現の違い、様々な「違い」を語りあったり、参加者のみなさんに寄り添いながら、さまざまなことをやっていく場です。

1回目：2023年 9月9日（土）14:00～16:00

2回目：2023年 10月7日（土）14:00～16:00

会場：はじまりの美術館

参加者：計5人



1回目は「いろんな『黒』を使ってみよう」をテーマに開催しました。まずは「10B」という柔らかさの鉛筆を使って、画用紙の端から端まで黒のグラデーションを作ってみました。次に木炭、ボールペン、鉛筆、水性ペン、油性ペン、炭、アクリル絵の具など、さまざまな画材が用意され、その中から自由に選んで描いてみて、自分の好きな色や感触の黒を探りました。最後は、描いてみたいものを机の上に用意されたものから選び、集中してひとつのものを描きました。いろんな画材を混ぜて描いてみたり、初めて使う画材をたくさん使ってみたりして、45分目一杯描きました。

2回目は「いろんな筆や画材で表現してみよう」をテーマに開催しました。黒い画用紙に、筆や刷毛、ローラーやスポンジなどを使って表現しました。自分の好きな表現や質感を見つけて、色画用紙に今日の気持ちなどいろんな気持ちを描いてみました。

どちらの回も最後に作品を並べて、描いてみた感想や、お互いの作品についてコメントをしました。「集中できてとても楽しかった」「木炭の感触がとても気持ちよかった」「使ったことのない道具が体験できて面白かった」「参加できてよかった」などの感想もいただきました。





きになる
↓↑
まちなか美術館



会期：2024年2月17日(土)～2024年3月17日(日)

会場：福島県南相馬市内の店舗や施設など

参加店舗：

アオスバシ、おおまちマルシェ、小高交流センター、カフェビーンズ、そば処木音、NARU マチ・ヒト・シゴトの結び場、haccoba 小高醸造所&KITICHEN、若松味噌醤油店

出展作家：

荒木 聖、伊藤美羽、岩井梨美、A・Y、蒲生卓也、桑原冬我、KEIJI、K・R、佐藤将希、tubasa、長倉千恵、並木良一、幡月、ぶんちゃん、松田匠慈、門馬 尊、リン

社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館では、2017 年より福島県から委託を受け、福島県内在住または出身の障がいのある方等を対象とした公募展の企画運営を行っております。今年度開催した第 7 回福島県障がい者芸術作品展「きになるゝひょうげん 2023」では、応募総数 387 組、474 点の作品が集まりました。45 日間の会期中に、1,669 名（1 日平均 37.1 名）の方にご来場いただきました。



その関連企画として、お店などを営む人たちに「きになるゝひょうげん 2023」からご自身のきになる作品を選んでいただき、店舗などに展示いただく「きになるまちなか美術館」を実施しました。今回は南相馬市の 8 施設で、17 作家 19 作品を展示させていただきました。様々な方がまちを巡り、人と作品、そして人と人が出会うきっかけとなることを願い、企画しました。



A・Y 《カブトムシ》

カブトムシというシンプルなモチーフですが、その立体感の表現にこだわりました。発想がぶっこんでいるものも面白いですが、こうしたシンプルさの中にひそむこだわり、作品としてずっと飾っておきたくる質の高さのある作品も良さがあります。

アオスバン



長倉 千恵 《ねこの村》

子どもと一緒に美術館を回るとして、こんな作品が並んでいたら、一緒に楽しめそうだなと思いました。ピンクのキャラクターたちもニコニコ楽しそう。

アオスバン

松田 匡慈 《展開式会津支援学校》
《富士山ファイターズ12》

つくりたい！と思って実際にこの物量をつくりあげていく。そのエネルギーって人間の根源的エネルギーだと思います。みんなも作りたいと思ったらつくろう！って言いたくなる作品。

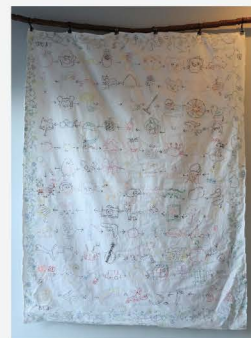
アオスバン



佐藤 将希 《タイムマシーン》

バス？に時計が乗っているのがさらにナゾめていますね。

おおまちマルシェ



ぶんちゃん 《絵しりとり》

子どものころよくやった絵しりとり。それを「ししゅう」にしてしまった。考えるだけならいくらでもできるかもしれないが、それをこんな長大な作品として完成させてしまった。そのエネルギーがとても素敵。Tシャツできたらほしいです。

アオスバン



蒲生 卓也 《大仏》

おだやかな表情の大仏さまと、ひがんなの花のダイナミックさ!! 色の重ね方もきになります。

小高交流センター



KEIJI 《無題》

シャンデリアのような、インパクトと光があたってキラキラしているのが、ペットボトルだなんて!!

小高交流センター

tubasa
《五感を働かせて見るより体験～》

どこにピントをあわせて見るか、見方で受け取り方も変わる、気持ちを引っぱってくれる、そんな気がします。

おおまちマルシェ



桑原 冬我
《とうが たのしい ワールド①》

隅々まで何があるのか探してみたい 楽しい表現。
そば処木音



並木 良一 《夏空》

夏の空と雲のコントラストがいい。
そば処木音



門馬 尊
《吾妻山と学校裏のまないた山との戦い》

迫力ある 対峙している 山の様子。
そば処木音



荒木 聖 《波》

ペットボトルのラベルを変形させて、いろいろ豊かにちりばめたアイデアが目をはきしました。
NARU マチ・ヒト・シゴトの結び場



岩井 梨美 《アミーゴ姉妹》

黄、オレンジ、青の色のコントラストがステキ！そこに浮かび上がる アミーゴ姉妹たちが可愛い。
haccoba 小高醸造所&KITICHEN



K・R 《引越し初日の夜》

引っ越し初日の、まだ生活感のない空間。でも、窓から見える星や月が、これから始まるワクワクを感じさせる。
haccoba 小高醸造所&KITICHEN



リン 《研究室》



リン 《時のメモリーズ》

引き込まれるようなデザインと細やかさ、そして豊かな色彩と配色が素敵です。時空を旅しているような不思議な気分になります。
カフェビーンズ



伊藤 美羽 《魚》

こんな魚はいそうでない。
鮮やか！
若松味噌醤油店



幡月
《大正天皇 明治天皇 昭和天皇 夏の思い出》

歴代天皇がならんでいる
右が昭和天皇だろう。
若松味噌醤油店

展示会場のみなさん

南相馬市の店舗や施設のみなさまから、作品を展示したい方を募集しました。展示会場は、フライヤーなどをデザインいただいた marutt 株式会社の西山さんよりご紹介・仲介いただきました。

アオスバシ
(飲食、小売店)



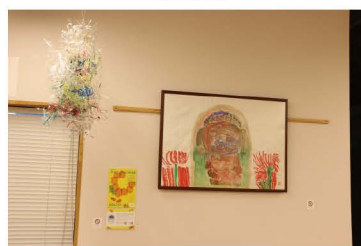
展示作家：A・Y、長倉千恵、ぶんちゃん、松田匡慈、門馬尊

おおまちマルシェ
(小売店)



展示作家：佐藤将希、tubasa

小高交流センター
(公共施設)



展示作家：蒲生卓也、KEIJI

カフェビーンズ
(飲食店)



展示作家：リン

そば処木音
(飲食店)



展示作家：桑原冬我、並木良一、門馬尊

NARU マチ・ヒト・シゴトの結び場
(コワーキングスペース)



展示作家：荒木聖

haccoba 小高醸造所 & KITCHEN
(醸造所、小売店)



展示作家：岩井梨美、K・R

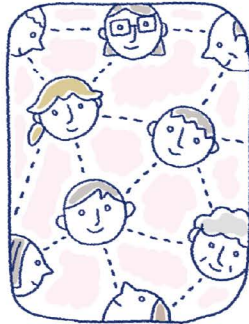
若松味噌醤油店
(醸造所、小売店)



展示作家：伊藤美羽、幡月

4

「ネットワークを^{ひろ}広げる」



南東北・北関東ブロック

はじまりの美術館は福島県の「障がい者芸術文化活動支援センター」として活動しています。厚生労働省では全国の各都道府県に1箇所ずつセンターの設置を目指しており、令和5年度は44の自治体でそれぞれのセンターが活動しています。また全国の連携事務局のほかに、国内を7つのブロックにわけ、ブロックごとに「広域支援センター」が設置されています。福島県は「南東北・北関東広域センター」（宮城、山形、福島、栃木、茨城、群馬）ブロックに含まれ、宮城県のNPO法人エイブル・アート・ジャパンが広域支援センターを担っています。

今年度は、所属自治体の担当者も交えてブロック内で共同評価を学ぶオンライン研修や、新たな試みとして広域ブロック内のセンターそれぞれ1箇所に赴いて研修する「出稽古」事業も実施しました。それにあわせて、はじまりの美術館では宮城県のセンターへ出稽古に向かいました。

福島県内でも昨年に引き続き福島県博物館連絡協議会と共催した文化施設へのアクセシビリティを考える研修会や、シエント情報交換会を実施し、表現活動に関心がある方同士のネットワークを広げる場にもなりました。少しずつ広がっていくネットワークを、今後の活動に活かしていきたいと思います。

〔南東北・北関東ブロック〕

宮城県、山形県、福島県、
栃木県、茨城県、群馬県

広域センター

宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県
南東北・北関東ブロック広域センター

実施：NPO法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局

山形県 支援センター

やまがたアートサポートセンターら・ら・ら
実施：社会福祉法人愛泉会 ぎゃらりーら・ら・ら

宮城県 支援センター

障害者芸術活動支援センター@宮城（愛称：SOUP）
実施：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

福島県 支援センター

はじまりの美術館
実施：社会福祉法人安積愛育園

栃木県 支援センター

とちぎアートサポートセンター TAM（タム）
実施：認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

茨城県 支援センター

茨城県 福祉部 障害福祉課
実施：茨城県 福祉部 障害福祉課

群馬県 支援センター

群馬県障害者芸術文化活動支援センター こ・ふあん
実施：特定非営利活動法人工房あかね

「出稽古」 事業報告

宮城県への出稽古

日時：2024年1月31日（水）

令和5年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」

会場：利府町文化交流センター リフノス

（宮城県宮城郡利府町森郷新椎の木前31-1）

主催：宮城県教育委員会、文部科学省

南東北・北関東ブロックでは、今年度より支援センターの担当者が南東北・北関東広域センター内を対象地域として学びに向かう「出稽古」事業がスタートしました。各組織の支援センターに不足している活動や施策について具体的に学べるよう出稽古先を選びました。

はじまりの美術館からは小林竜也が宮城県へ向かい、山形県の支援センターからは武田和恵さんが福島県へ出稽古にいらっしゃいました。



山形県からの出稽古受け入れ

研修会への参加 → 研修会詳細はP11をご覧ください

福島県博物館連絡協議会事業との共催事業

博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会
～誰もが訪れやすいミュージアムの仕組みづくり～

日時：2024年2月1日（木）13:30～16:00

会場：郡山市立美術館多目的スタジオ

（福島県郡山市安原町字大谷地 130-2）

福島県障がい福祉課との意見交換

日時：2024年2月2日（金）10:30～11:30

場所：福島県庁（福島県福島市杉妻町2-16）

福島県では令和4年度より福島県博物館連絡協議会と連携して「博物館・美術館におけるアクセシビリティ向上にむけての研修会」を実施していますが、山形県でも文化施設へのアクセシビリティを高める取り組みをはじめてみたいという想いから福島県へ出稽古にお越しいただきました。

また、福島県庁へも同行していただき、障がい福祉課との意見交換を行いました。武田さんからは山形県での取り組みから、商工観光分野との連携や、アーティスト派遣の事例などを中心にお話いただきました。どちらもまだ福島県では取り組めていない事例だったので、今後の活動に活かしていきたいと考えております。



全国の福祉事業所とのネットワーク

はじまりの美術館では、全国で先駆的な活動を行う事業所やアトリエなどを訪問し、ネットワークを広げています。そうした成果は、展覧会事業や研修会、イベントなどの形で紹介し、福島県内の方々へ知っていただく機会を作っています。訪問先では制作の様子を拝見したり、意見交換を行ったりしました。

川口太陽の家・工房集 (埼玉県川口市)



工房集は福祉施設であり、社会福祉法人みぬま福祉会を利用するメンバーの表現プロジェクトを社会につなげるための活動拠点として 2002 年に開設しました。11 のアトリエを中心に、約 150 名のメンバーが表現活動をしています。2023 年 4 月 22 日から 7 月 9 日の期間に開催した、はじまりの美術館企画展「あいまいな あわいの まにまに」では、西野克さんに出演いただきました。川口太陽の家で西野さんの行為の痕跡を拝見しました。これらは担当の職員さんが、西野さんの行動や傾向を調査をするために拾いはじめ、保管するようになったそうです。また、スタンドガラスの工房も見学させていただきました。

社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房 (滋賀県甲賀市)



やまなみ工房は、1986 年に滋賀県甲賀市に開設されたアートセンター&福祉施設です。開設当初 3 名だった利用者の方は現在 90 名ほどいらっしゃり、お一人お一人の「これをすることが幸せである」を大切に活動をされています。2023 年 7 月 29 日から 10 月 9 日まで開催したはじまりの美術館企画展「物語ることも、物語らないことも、物語れないことも」では、井上優さんの絵画作品と、制作風景や日常の様子動画をお借りし、展示させていただきました。実際に井上さんからお話を伺ったり、作品を制作する様子の見学をさせていただきました。

社会福祉法人にじの会 にじアート (東京都三鷹市)



にじアートでは、「その人らしい暮らしの実現」を支えることを方針とし、重度知的障害者の方々に音楽、運動、美術などの活動と各種の作業を組み合わせ、一人一人に合った日中活動プログラムを提供しています。2023 年 7 月 29 日から 10 月 9 日まで開催したはじまりの美術館企画展「物語ることも、物語らないことも、物語れないことも」にて、岡部亮佑さんに出演いただきました。

5

じょうほう し
「情報を知る」



はじまりの美術館の情報発信



はじまりの美術館内情報コーナー

はじまりの美術館館オハコカフェには、情報コーナーがあります。「福島県内の展覧会の情報」「全国の展覧会の情報」「障がいのある方の表現活動に関する情報」「作品募集に関する情報」など、各地から集った様々なチラシやご案内などを、わかりやすく配架しています。置いてあるチラシはその時々で更新されていますので、ぜひ自由に見たり持ち帰ったりしてみてください。オハコカフェには無料で入ることができます。別料金で、コーヒーやジュースなどのドリンクを飲んで、ゆったりと過ごすこともできます。



また、はじまりの美術館以外でも、文化施設やカフェなどには情報コーナーやお知らせコーナーがあることがあります。施設によって置いてあるチラシも異なり、近隣の知らなかった情報に出会えることもあります。お出かけの際には情報コーナーをチェックすることもおすすめです。

はじまりの美術館 SNS

はじまりの美術館のSNSでは様々な情報発信を行っています。ぜひフォローしてみてください。公募展の情報を知りたい方は、Twitterで「#福島県障がい者芸術文化活動支援センター」と検索してみてください。



Facebook



はじまりの美術館の活動や
お知らせを
発信しています。



Instagram



はじまりの美術館の活動や
日々のできごとを
発信しています。



X



はじまりの美術館の活動や
来場者の感想を
発信しています。



X



#福島県障がい者芸術文化活動支援センター

はじまりの美術館に届いた
公募展情報などを発信しています。



note



展覧会や研修会などの
お知らせや、読み物を
発信しています。



Youtube



はじまりの美術館での
オンライントークイベント
などを公開しています。

さがす・であう はじまりアーカイブス

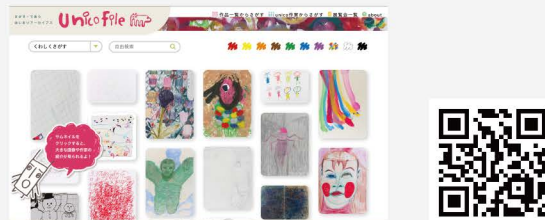
はじまりの美術館では、2つのアーカイブサイトの運営を行っています。日本財団の助成をうけて2018年から運用を開始しました。2018年3月から「unico file」の公開を始め、2019年8月からは「fukushima file」を公開し、現在も支援センター事業の一環として更新を続けています。サイトを訪れた方が、まだ知らない作者や作品に出会い、日常を楽しくしたり、何かを表現してみようと思ったり、ここから何かがはじまることを願っております。

fukushima file



はじまりアーカイブス「fukushima file (ふくしまファイル)」は、福島県内で、なんだかきになる表現をしている障がいのある方のことや、その表現や作品を記録・保存し、公開しているデジタルアーカイブサイトです。

unico file



はじまりアーカイブス「unico file (ウーニコ ファイル)」は、社会福祉法人安積愛育園 unico の活動からうまれた作品のデジタルアーカイブサイトです。このサイトでは、事業所の中で日々うまれる作品から、現場で支援を行うスタッフが「誰かに伝えたい / 残したい」と思った作品を記録・保存・整理しました。

おすすめサイト・書籍

この報告書を手にとってくださった方に、次にご覧いただきたいサイトをご紹介します。

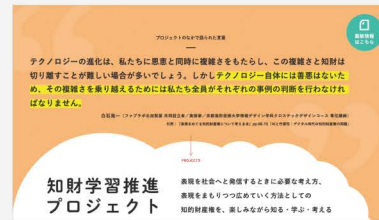
厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

運営：障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局
<https://arts.mhlw.go.jp/>



知財学習推進プロジェクト

運営：一般財団法人たんぽぽの家
<https://chizai.goodjobcenter.com/>



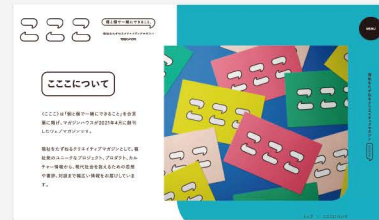
DIVERSITY IN THE ARTS TODAY

運営：一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
<https://www.diversity-in-the-arts.jp/>



福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」

運営：株式会社マガジンハウス
<https://co-coco.jp/>



※情報は 2024 年 3 月時点のものです

「どうしよう」からはじめるアーカイブ - 作品を記録し、伝える方法 -



<https://fukushima.hajimari-archives.com/book>

監修：須之内元洋

発行：みずのき美術館＋鞆の津ミュージアム＋はじまりの美術館

障害者支援の現場で日々生み出される表現の数々を「どのようにアーカイブしたらいいだろう」という問いからこの本は生まれました。作品の整理や管理の方法、初級編と上級編の撮影方法、ウェブサイトのつくりかたなど、デジタルアーカイブの一連の流れをイラストや写真とともに紹介。札幌市立大学デザイン学部講師・須之内元洋氏の監修により、技術的な内容にも触れた 1 冊です。

6

「ふりかえり・事業^{じぎょう}評価^{ひょうか}」





2023年度、はじまりの美術館では長津結一郎さん（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）に伴走いただきながら、じっくりとふりかえりと事業評価を行いました。事業評価とは、「事業の成果目標を明らかにし、成果につながる活動を行っていたかを大切に、事業が生み出したものに対して価値を付与することを目指しました。

これまでもスタッフで相談しながら、いわゆる「ロジックモデル」という事業評価を試みていましたが、振り返りとしてうまく機能させることができていないのか判然としない状況が続いておりました。福島県障がい者芸術文化支援センターとして行っている活動、そして、はじまりの美術館として行っている様々な活動をふりかえりながら、評価を継続しています。はじまりの美術館の今後の活動に活かしたり、みなさんの活動に活かしていただいたり、様々な活用ができればと考えています。

長津さんはアーツマネジメント、文化政策、障害学、ワークショップなどをご専門にされており、これまでもトークイベントに参加いただいたり、研修会「シエント」で講師をしていただいたりしていました。事業評価のプロセスでは、はじまりの美術館が現在行っている活動を思いつく限り書き出したり、それらを「何のためにやっているのか」を言葉にしていきました。長津さんと一緒に項目ごとに整理し、法人目標、最終目標、中間目標と結びつけて、やっていること、目指していることの全体像が明らかになりました。

表の見方

次ページに掲載している表は、厚生労働省が発行している「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドーより良い協働と事業成果を高めるためのヒント集ー」に掲載してある「障害者芸術文化活動普及支援事業支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト」をもとにしています。全国各地に設置されているセンターの活動がより良くなるためのコツが書かれたこのガイドでは、自分たちの活動がうまく進んでいるかを自己点検できるシートが掲載されています。この内容をもとにして、自分たちの活動の自己分析を試みました。自己評価を採点する際には、チェックリストに記載されているレーティング（評点）基準を参考にしました。

細かなチェックリストの内容や評点の仕方は、ウェブサイトにも掲載されているのでご覧ください。
<https://arts.mhlw.go.jp/wp-content/uploads/2021/07/c3f4d37f7aefcc2046f3da4aa5ea1929.pdf>
 (60ページ以降)

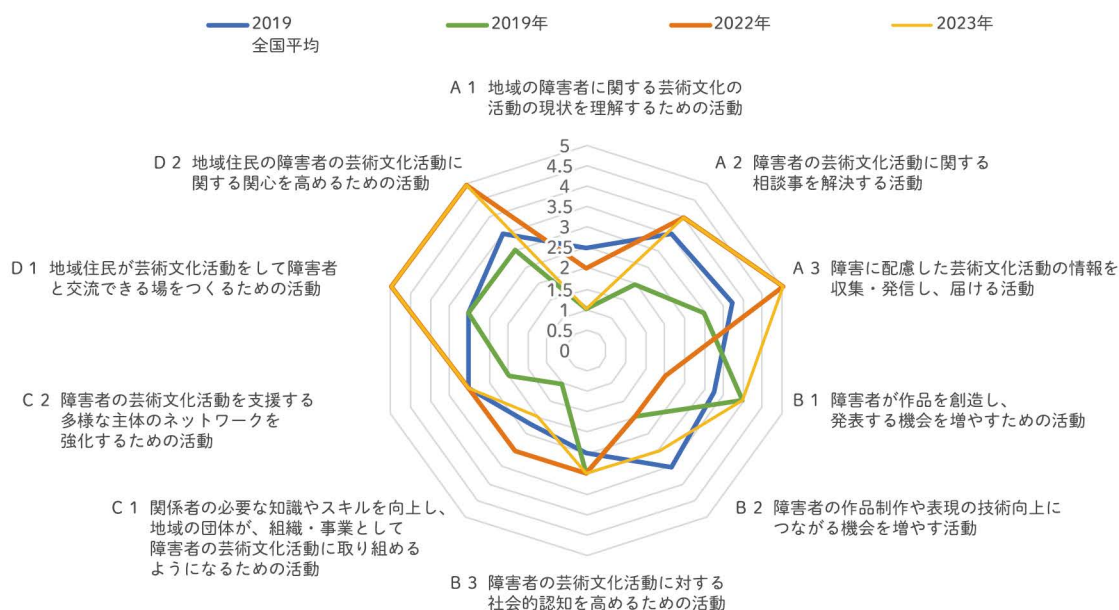


この報告書では、美術館全体の事業評価の中から、福島県障がい者芸術文化支援センターとしての事業評価に関わる部分にフォーカスを当ててご紹介します。

障害者芸術文化活動普及支援事業
支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト評点（2023年度）

支援	活動1	分類	活動2	2019 福島県	2023 福島県	相談する	研修を 受ける	鑑賞する・ 発表する	ネットワー クを広げる	情報を 知る
テーマA より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援	支援センターが地域の障害者芸術文化活動に関する情報を理解し、これらの情報を活用しながら障害者の相談事に対応したり、必要な情報を提供したりする活動	A 1	地域の障害者に関する芸術文化の活動の現状を理解するための活動	1	2				○	○
		A 2	障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決する活動	2	4	○				
		A 3	障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動	3	5					○
テーマB 障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会を増やすための支援	障害者が作品を創造し、発表する機会の増加や、障害者の技術向上のための機会の増加や、障害者の芸術文化活動に対する社会的な認知を向上させるための活動	B 1	障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動	4	2			○		
		B 2	障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動	2	2	○		○		○
		B 3	障がい者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動	3	3			○		○
テーマC 障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い活動を行うための取り組み	障害者福祉施設や文化施設等の関係者が、質の高い活動を行うために、必要な知識やスキル等を身につける活動	C 1	関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が、組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動	1	3	○	○	○		
		C 2	障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動	2	3		○	○	○	
テーマD 地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み	地域住民やボランティア等、地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組みとして、場作り等の機会創出や情報発信	D 1	地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動	3	5			○		
		D 2	地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動	3	5			○		○
			50点中	24	34					

支援センター活動のコツ チェックリスト 評点



やりたいことであり、かつ、課題にアプローチできることを探す ～今年度の事業評価を振り返って

長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）

昨年度に引き続いて、支援センターとしての事業の評価を見守り助言をさせていただく立場で、はじまりの美術館の実践に関わらせていただきました。昨年度の報告書で私は「第2.5者評価」という言葉を書きました。自己評価でも、組織内部での評価でもなく、かといって第3者評価でもない立場から共に評価の実践に伴走する、といった趣旨でこの言葉を書いていたように思います。そのような視点に立ちながら、具体的にははじまりの美術館のみなさんの自己評価を点検しながら、今後の事業をより良くしていく



ためのポイントを一緒に考えていくようなミーティングを持てたのは、私にとってもとても良い経験になりました。

さて、今年度の支援センターとしての事業を、厚生労働省の「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイド」に記載のチェックリストに基づきながら共に振り返ったところ、それぞれはじまりの美術館が支援センターの事業を行ううえでの強みと弱みが改めて見えてきたように思います。

まず強みは、何と言っても、地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動や、地域住民が障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動の盤石さです。はじまりの美術館自体は猪苗代町にあるわけですが、その地域住民との交流の場をしっかりと持つことができているのは、美術館の設立以来、さまざまな地域の方たちとの関係性を築きながら運営がなされていることに起因しているでしょう。実際、評価検証のミーティングに赴いた際も、美術館の展示を見に来るわけでもないまちの人たちが様子をのぞきにきている場面に çıkわし、はじまりの美術館ならではの光景だと改めて感じた次第です。また今年度は県内の他地域との取り組みも進められたということでした。

一方、相対的にやや弱みとして映ったのは、地域における、障害者に関する芸術文化の活動の現状を理解するための活動に関することです。今年度は昨年度実施したような県内の実態調査を行っておらず、また障害のある人個人が創作した作品に関する調査はしているものの、施設等にアプローチした取り組みは行なっていないという点が課題として残りました。

ただし必ずしも、このチェックリスト通りに事業を実施することが目的なのではない、ということには留意すべきです。ガイドラインとしてはあくまでおおまかな方向性を示しているにすぎず、具体的には各都道府県の事情に応じて柔軟に評価項目自体を変更していくこともまた望まれる姿であると考えられます。そこで、はじまりの美術館を運営するスタッフのみなさんとして、この課題に対してどのようなことをすると、本来みなさんがやっていきたいことでもあり、かつ課題の解決につながるようになるか、という観点でディスカッションをさせていただきました。結果、他県でどのような実態調査をしているのかを報告書を回し読みしながら考えたりする、というアイデアもあがりました。

このような評価への伴走が、より良い事業運営と改善に向けた一助となれば幸いです。やりたいことであり、かつ、課題にアプローチできることを探す、という視点は今後も大切にしていきたいと改めて感じました。

福島県障がい者芸術文化活動支援センター

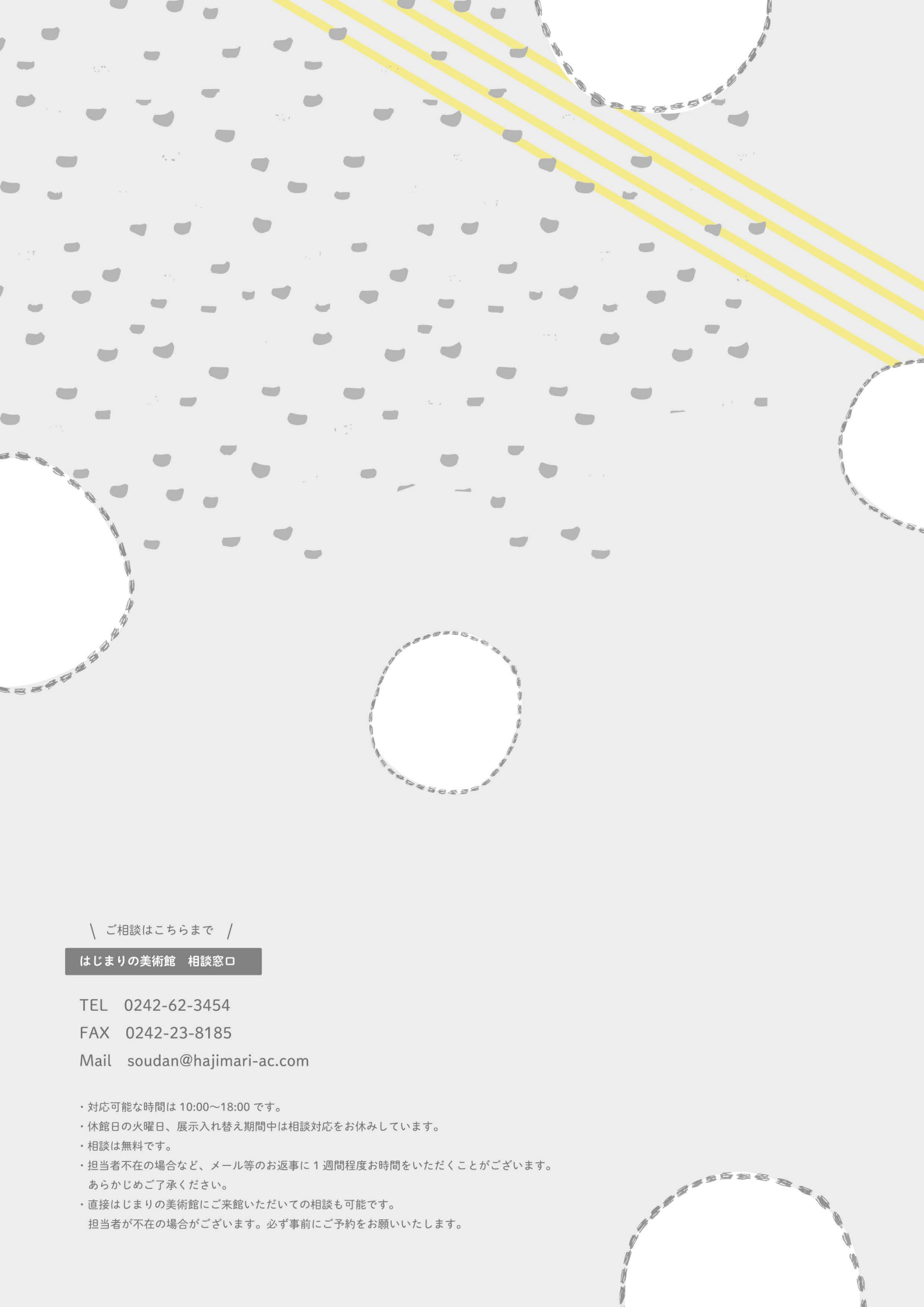


はじまりの美術館

2023 年度報告書

編集	はじまりの美術館（岡部兼芳、小林竜也、大政愛）、佐藤恵美
編集補助	はじまりの美術館（青木早知子、中野美奈子）
執筆	長津結一郎（p.34）
写真	はじまりの美術館、白土亮次（p.16,17 の作品画像）
イラスト	ふるやまなつみ
デザイン	藤城光
発行	社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館 〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町 4873 TEL. 0242-62-3454

2024 年 3 月 31 日発行



\ ご相談はこちらまで /

はじまりの美術館 相談窓口

TEL 0242-62-3454

FAX 0242-23-8185

Mail soudan@hajimari-ac.com

- ・対応可能な時間は10:00～18:00です。
- ・休館日の火曜日、展示入れ替え期間中は相談対応をお休んでいます。
- ・相談は無料です。
- ・担当者不在の場合など、メール等のお返事に1週間程度お時間をいただくことがあります。
あらかじめご了承ください。
- ・直接はじまりの美術館にご来館いただいての相談も可能です。
担当者が不在の場合がございます。必ず事前にご予約をお願いいたします。